

# 令和 7 年度 研究部事業報告用紙

## 情報教育

部

### (1) 経過報告

	月 日	曜日	内 容	会 場
1	5/13	火	第1回 情報教育小委員会	磐周教育研究所
2	6/17	火	第2回 情報教育小委員会	磐周教育研究所
3	7/8	火	第3回 情報教育小委員会	磐周教育研究所
4	7/30	木	磐周教研 分科会	袋井南コミュニティーセンター
5	10/28	火	第4回 情報教育小委員会	磐周教育研究所
6	1/20	火	第5回 情報教育小委員会	磐周教育研究所
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				

### (2) 反省及び磐周全体に関する課題と改善策

(各研究部の人数・参加者の研修意欲・研修方法について等、いろいろな視点で振り返りをお願いします。)

磐周全体で情報教育部の人数は、磐田地区35人、袋井・森地区21人の計56人であり、近年は60人弱の参加者となっている。

今年度も、生成AIを中心に「授業内外でどのように活用することができるのか」ということについて研修を行った。どの部員も前向きに研修に取り組む姿が見られ、実践の共有の場では、積極的に交流を深めた。また、各研修での発表を受けて、参加者自身も同様の実践にチャレンジする姿も見られた。

参加者の意欲的な取組の要因としては、昨今の情報関連の発展がある。研修会が、「技術の進歩に対してどうすれば児童生徒に還元できるか」を考え、自ら向上に努めようという刺激を受ける場として機能している。そのような姿勢が、各教員の教育の質の向上につながり、ひいては児童生徒への学びの質の向上につながっている。

今後も、情報関連の発展は目覚ましいものと考えられる。引き続き、「生成AI・AIドリル・情報モラル教育やメディアリテラシー・ファクトチェック」といった多くの課題に対して、情報教育の観点から研修を深めていきたい。